


# 園内研修教材 (あるある研修)

 あなたなら、どう考えますか？

 他の保育者は、どう考えるのでしょうか？



幼児教育施設の日常において“よくある出来事”について、“あるある”と題した「園内研修教材（あるある研修）」を作成しました。

短い時間でも、少人数でも実施できますので、是非御活用ください。



北海道教育庁義務教育課幼児教育推進センター  
【併任課】総務部学事課・保健福祉部子ども政策企画課

## ■ はじめに

- 幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、高い専門性と職業倫理によってその教育活動を支える保育者の皆様に対しましては、心より感謝申し上げます。
- なお、幼児教育の質向上のために各園におかれましては、保育参観・講義・協議・演習・幼児教育相談員の活用等様々な形態により園内研修を実施し、適切な援助を行うための実践的指導力の向上に取り組んでいただいているところです。
- しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大により、外部講師の招へいや公開保育の実施が難しい状況にあったり、コロナ対応をはじめとする業務増等の影響から、日々忙しく研修時間の確保といった点も課題の一つであると思います。
- 本資料は、そうした状況において、研修を計画しようと思いつつもどう実施しようか悩み、迷っている幼児教育施設の一助となればと考え作成しました。

幼児教育の質を向上するためには、保育者同士が語り合い、気づき合うことが第一歩であり、とても大切なことです。

各幼児教育施設には、本資料の事例と類似した場面がたくさんあると思いますので、本資料の中から各幼児教育施設の実態に近い事例について、保育者同士が「語り合うきっかけ」として活用いただき、研修を重ねていただければ幸いです。

## ■ 活用にあたっての留意事項

- 各幼児教育施設の実情は、環境や施設、子どもたちの状況も様々です。まずは自園の状況を職員全体で把握し、できることから工夫して取り組んでみましょう。
- あるある研修教材には、「年齢設定」がされている事例もあります。自園の状況に応じて、「異なる年齢」についても協議してみましょう。
- 保育者同士が語り合い、気づき合うことに加え、その根底にある幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所を意識するようにしましょう。

# 本教材を活用した園内研修のイメージ



## ■ 研修概要

所要時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね 30 分で実施可能な内容となっています。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 各幼児教育施設の状況に応じ、以下のような工夫も考えられます。</li> <li>・ 個人思考、グループ協議等の時間を分けて、10 分程度ずつ実施する。</li> <li>・ 全員が同じ時間帯に実施できない場合などは、書面で全体共有する。</li> </ul> </div>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人思考、グループ協議、全体共有</li> </ul>

## ■ 協議のポイント

否定しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の意見を頭から否定しては考えが広がりません。</li> <li>・ 違いに気づき、お互いの考えを尊重しましょう。</li> </ul>
司会の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に意見を言える雰囲気づくりを心がけましょう。</li> <li>・ 経験の浅い職員から順に発言するようなルール設定も 1 つの方法です。</li> <li>・ 全体の様子を把握し、偏った職員だけが発言することのないよう必要に応じて声かけをしましょう。</li> </ul>
グループ分け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任する学齢ごとのグループにするか、あるいは経験年数の違いをどのように組み合わせるかなどグループ設定は重要です。</li> <li>・ 研修テーマや職場の状況に応じグループを編成し、毎回同じメンバーではなく、できるだけ多くの職員と交流できるようにしましょう。</li> </ul>
協議のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議（話し合いに）1 つの正解があるわけではありません。</li> <li>・ 感じたことを出し合い、違いや共通点を確認し自身を振り返ることが大切です。</li> </ul>

## ■ 研修イメージ

はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修テーマを選ぶ。</li> <li>・ グループに分かれる。（必要に応じて、司会・書記を決める）</li> </ul>
個人思考 (5分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>研修資料 1</b> を配付する。</li> <li>・ ワークシートの「<b>協議のポイント</b>」について個人で考える。</li> </ul>
グループ協議 (15分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で感じたこと・意見を全員が発言する。</li> <li>・ グループで協議した内容を 2～3 点にまとめる。</li> </ul>
全体共有 (5分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループの代表者が、気づきやポイント等を発表する。</li> </ul>
さいごに 事例園での 取組 (10分程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>研修資料 2</b> を配付する。</li> <li>・ 「事例園での取組」や「ワンポイント」を参考に、新たな視点から自園ではどのような工夫ができるかなどを検討する。</li> <li>・ 必要に応じて、園長などから講評・アドバイスを行う。</li> </ul>



# 園内研修教材（あるある研修）



## もくじ

標 題	概 要	ページ
① 「ともだちって…」	友だち同士のトラブルから「子どもの成長や保護者との関わり、保育者の願い」などについて	1
② 「お話聞けたら…？」 →「お話聞きたいな…」に	ちょっぴり乱暴で伝えることが苦手な幼児にまつわるエピソード。そのことを職員全体で考えてみたら…その子の「話がきけたらな」から「話が聞きたいな」と気持ちが変わった。乱暴な行動の幼児にどのような関わりやことばがけをしているか、「伝えられない」幼児にどのような配慮ができるのかについて	4
③ 「不安な幼稚園生活」	入園当初は頑張っていて登園していたが、5月になってから泣き始めてしまった園児。そうした園児への「支援方法や保護者との関わり」について	7
④ ～子どもの「〇〇したい」に寄り添う 保育～ コロナ禍のなかで	コロナ禍においても、幼児が〇〇したい、やりたいと主体的に遊びを楽しむことができるための工夫について	10
⑤ 2歳児、年少児、年中児、年長児の 「けんか」	「けんか」の事例から、自身が見取る「〇歳児らしい」と感じる姿と、他学年から見た「〇歳児らしさ」について交流し、保育指針や教育要領等との比較について	14
⑥ 「たべられたよ！」	食べ物の好き嫌いや食わず嫌いのものが多く、昼食時に苦労している。様々な声かけや工夫について	16
⑦ 「太郎くん、1人で出来るかな？」	自分で考え、意思表示し行動することが苦手な幼児に対する関わりについて	19
⑧ 「翔ちゃんとまっ赤なじゅうたん」	転入生と保育者、保護者との関わりについて ※7/8に通知済み	22



## 園内研修の実践例

■ 園内研修を実施する際に工夫していること	25
-----------------------	----



## 【資料】 参考資料

■ 幼児教育において育みたい資質・能力	28
---------------------	----



## 【資料】 作成協力者（幼児教育相談員）

■ 教材、実践例を提供いただいた幼児教育相談員の皆様	29
----------------------------	----

## あるある研修 ① 「ともだちって…」

### ■ 主な内容

- 運動会が終わった9月の5歳児クラスの出来事。
- 友だち関係も出来上がり、仲良しグループがそれぞれ誘い合って各々遊びを展開している姿があちこちに見られる。
- そんなある日、マー君の靴が見当たらない事件が発生。
- クラス全員で園内をくまなく搜索するもその日は見つからず、マー君のお母さんにその旨報告。
- 夕方担任に1本の電話が入る。ゆっき君のお母さんからだった。
- 電話の内容は、ゆっき君が帰りの車中で泣き出したとの事。
- お母さんがゆっくりゆっき君の言葉を待っていると「ぼく見ちゃったんだ。こっちゃん、ゆう君と、ゆっ君がマー君の靴を隠したんだ。僕と3人は友達だから、やめようって言えなかった…」と話したという事だった。
- それを受けた翌日…事件はどのような結末を迎えるのか！！

### ■ 幼児と保育者のようす

**担任**：「ゆっき君に話したいことあるんだけど、いいかな？」

**ゆっき君**：「なに？」

**担任**：「昨日みんなを探して見つからなかったマー君の靴ってどこにあるんだろうね？」

(少し考えてから…)

**ゆっき君**：「えっとね、先生の棚の中」

**担任**：「そうなんだー教えてくれてありがとう。でも何で知ってたの？」

**ゆっき君**：「ぼく見てたから…こっちゃんと、ゆう君と、ゆっ君が隠すところ」

**担任**：「なるほどねえ～見てた時どんな気持ちだったの？」

**ゆっき君**：「駄目だよって言わなくちゃって思ったんだ、マー君かわいそうだし。でも友達だから言えなかった。」

**担任**：「ゆっき君は、こっちゃんと、ゆう君と、ゆっ君にどんな友達になってほしい？」

**ゆっき君**：「皆と仲良くできる優しい友達になってほしい」

**担任**：「すっごくいい考えだね。その気持ち、3人に伝わってるかな？」

**ゆっき君**：「わかんない・・・」

**担任**：「どうしたら伝わるんだろうね？」

**ゆっき君**：「ぼくが話せばいい？」

**担任**：「話してみる？」

**ゆっき君**：「話してみるかな～」

**担任**：「そうしてみようか。」

(朝の会の時間…)

**ゆっき君**：「マー君の靴は先生の棚の中です。こっちゃん、ゆう君、ゆっ君、ちゃんとマー君に謝ろうよ。みんな同じクラスの仲間だから、皆と仲良くしたいと思うし、優しい友達でいたいよ。」

**※その後も4人は仲良しグループを継続し、クラスのリーダー的役割を次々と果たし、卒園まで充実した日々を過ごしました。**

ワークシート①(ともだちって…)

■ 協議してみましょう

○ 保育者がゆっき君に願っていたことは何だと思いますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 保護者からこのような子どもの事で相談があった時、あなたならどのように対応しますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

## ① 「ともだちって…」

### ■ この園での取組

- 子ども達の心を豊かに育むことを教育目標に置き、保育の中で子ども達の何気ない一言や、友達同士の会話などを大切にとらえている。
- 子ども達の考えや子ども同士の話し合いの場を多く持ち、自分の意見を言葉で伝えられる保育環境の設定を日ごろから大切にしている。
- 友だちとのかかわりの中にみられるトラブルは子どもにとって必要なエッセンスであるにとらえ、必要以上に保育者が介入せず見守るスタンスを取っている。トラブルの性質によっては保育者が介入し、解決の糸口を探っていくこともある。
- 一つの問題を常に自分の事のように受け止め、皆で一緒に考えられるクラスを目指しクラス運営を行ってきた。1学期からの経験があり、保育者は子ども達で解決できると確信し、問題解決を子ども達に託した。
- 「友だち」の定義はとても難しい。確かに仲良く遊べることは大切だが、5歳児になればそれだけの関係ではなく、もっと深い心の部分でつながっていてほしいと願っている。深い心のつながりがあれば、友だちに注意したとしても関係が崩れるはずはないと考える。
- 子どものトラブルは保護者の理解や助力なくしては解決しない。そのため日頃より保護者との間に好ましい関係を築けるよう、子どもの様子を伝えていくようにしている。今回の事例でも、母親からの連絡があって問題解決の糸口が見え、また別の問題点も明らかにすることが出来た。

### ■ ワンポイント

- 自園の教育方針から鑑み、子ども同士のトラブルについて保育者はどのような立場で子ども達に接するのが好ましいのか、職員全体でその考えを共有しましょう。
- 学年別にトラブルの傾向を洗い出し、保育者の介入や解決への手立てなど、どういったものが考えられるか話し合ってみましょう。
- トラブル解決に欠かせない保護者との連携について各自で振り返り、今後どのような連携の在り方が出来るのか出来るだけ具体的に考え、実践していきましょう。
- 一人で抱え込まず、先輩や上司に相談しましょう。

## あるある研修 ② 「お話 聞けたら…？」

### ■ 主な内容

☆ちよっぴり乱暴な行動が目立つKくん（3歳）のお話です☆

- ・何も言わず玩具をとってしまう
- ・近寄ってきたお友だちや保育者を叩いたり噛んだりしてしまう
- ・自分の使いたい玩具を使えないと泣く・暴れる
- ・発音不明瞭で聞き取りにくいことばが多い
- ・まだ「伝える・伝わることば」の数が少ない印象
- ・母とは会話が成り立っている時が多く、やり取りが成立している印象

※そんなKくんです…が少しずつお友だちに興味が出てきた様感じています…

### ■ 幼児と保育者のようす

（ちよっぴり乱暴なKくん…周りのお友達は少し警戒している様子です…😬）

みんな好きな遊びを楽しんでいます。

汽車の玩具で遊んでいたAくんの所へそ〜っと近づいていったKくん…。

サッと汽車の玩具を手にとって逃げています…。

Aくん「Kくんがとった!!!」

保育者「Kくん、今、Aくんが使ってたよね？悲しい顔してるよ。返してあげてね。」

Kくん「……………」

反応はなく近づくと逃げていってしまいます。お部屋の端っこまで行くと近づいていったAくんに玩具を投げつけてピューッと走ってどこかへ行ってしまいました。

その後すぐ…

Sちゃんの遊んでいるところへ…。Sちゃんが可愛がっていたお人形を引っ張っています♡

Sちゃん「Kくんやめて!!!!」

負けずに引っ張るSちゃん……………ガブッ!!!（KくんはSちゃんを噛んでしまいました…😬）

保育者「Sちゃん痛かったねえ…😬」

となでなでしたり冷やしたりしていると、その様子を見ていたKくん、近くにあった積み木を保育者の方に投げてきました。……困ったねえ……😬😬😬

その様子を見ていたSちゃん。トコトコとKくんの所へ…

保育者「…!!!Sちゃん!」

怒ってKくんの所へ行ったのかと思ったのですが…

Sちゃん「Kくん!玩具貸してほしいの?したら、か〜し〜て〜って言って!」

Kくん「……………あ〜え〜え〜（か〜し〜て〜）」

Sちゃん「い〜い〜よ〜😬それから!先生にごめんねは?痛くしたしょ!」

Kくん「……………うえん（ごめん）」とナデナデしてくれました。

（お子さん同士の関わりってすごいなぁと感じさせられたエピソードです(^^)♡）



ワークシート②（お話聞けたら…？）

■ 協議してみましょう

○ 自園の乱暴な行動のお子さんにどの様な関わりやことばがけをしていますか？

（個人思考）

（グループ・全体協議）

○ 「伝えられない」 お子さんにどの様な配慮ができると考えられますか？

（個人思考）

（グループ・全体協議）

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

## ② 「お話しけたら…？ → お話聞きたいな…に」

### ■ この園での取組

☆Sちゃんに気付かされた事をきっかけに話し合いを持ちました！

(Kくんの乱暴な行動は？)

- ・お友だちと遊びたいけどどうしたら良いかわからないのでは？
  - ・使いたい玩具があっても貸してもらおうためのスキルを持っていなかったり、伝えるためのことばを知らないのでは？
  - ・お友だちの近くにはいるよね！
  - ・そういえば、お友だちが走っていたら仲間に入っているように同じく走っている所を見ました！…
  - ・何を言いたいのかわかってあげられない時には、怒ってしまったり、泣いたり、行動で示すことがありました。
- 玩具をとっちゃったりした時もその前に訴えはあったかもしれません！

考察をすればする程、Kくんは「何がしたいのかな～何か言いたいのかな～」と先生たちは興味を湧いてきました(^^)

そんな話を踏まえて、やはり本人に聞くのが良いのでは？という話になりました。「聞く」と言っても本人が気持ちをことばにして伝えてくれる訳ではもちろんありません。ことばの不明瞭さも強く、なにかに言ってくれてもわからないのが現状です。

では？？？ どうやって？？？

- ① 母とは会話が成立していたり、やり取りできているので（母はすごいです！）話す様子をよく観察したり、聞き取れなかったことばは母に「なんて言ってたんですか？」と確認して自分たちも伝わることばを増やそう！（母がことばの不明瞭さを保育士たちと共有して下さっていたので一緒に考える事ができました！）
- ② Kくんをよく観察して、その場面にあったことばを代弁してあげられたらいいね…
- ③ 場面の背景や様子で「こんな風に言いたいのかもしれない」ということばをいくつか言ってみて、Kくんが「伝わった！」と思えるような経験を積めるような関わりができればいいね…

…という話し合いがなされ、ことば・コミュニケーションのお手伝いをする事にしました\(^o^)/

### ■ ワンポイント

◇ことばの不明瞭さがあったり、やり取りが上手く出来ないと？？？◇

★伝えられない…何を伝えるか、どんなことばがあるか？色々な場面で使えることばを知らないのかもしれない…

★伝わらない…自分ではそのことばを言っているのにわかってもらえず伝わらない  
そんな中で過ごしていたら怒ったり、泣いたり、不安になったり、悲しくなったり…するのではないのでしょうか…？（ことばの通じない外国に突然放り出されたら自分だったらどうかな～冷や汗だな…(-\_-)と私は想像しています…）そんな気持ちに気づいてあげられたら、何かお手伝いができるのでは？と思っています。様々な工夫やアイデアが浮かぶかもしれません(\*^^\*)

◇代弁とは…？◇

その子の気持ちを代わりにことばにして伝えるお手伝いをしてあげる事と理解していますが、その他に、状況にあったことばを聞いてもらうことで、ことばを知ったり、憶えたり、伝わる便利さや喜びが増えていってくれたらいいなあと思っています。しかし、本人ではないので正解の代弁をするのは難しいなあ～といつも感じています。よく観察して…大人の目線で決めつけてしまわないように、でも伝えてあげたい！とお子さんの様子を見ながら手探りです(-\_-)そんな中で、笑顔が見られると「これが言いたかったのか～！」と気づけてよかった～！と思えます(^^)。Kくんも…まだまだですが(-\_-)伝わる事が増えてきました。それと共に泣いたり乱暴な行動も減ってきた様に思います(^^)何度も言いますが、まだまだですけどね(-\_-)

◇発達のこと…◇

3歳でKくんの様な不明瞭があると耳の聞こえはどうか？お口の動きはどうか？と器質的な問題も想像できます。そんな時は専門の方に相談してみることも良いかもしれません  
(まずは保健師さんに相談してみましょう←気軽に！)

◇最後に…◇

職員全体で課題（状況）の把握とその改善策（工夫）を共有することでみんなで一緒にその子の成長を応援していけると思います！まずは何かに気づけたら…(\*^^\*)できることからやってみてください！